



卒業後の自分を想像する
センパイからのメッセージ

みやぞの

ゆうな

宮苑 祐那 さん（旧姓 藤尾）

平成27年3月卒業 / 小学校教諭

彼女の周りはずっと賑やか。自分の思い描いた活動の本気で作り、手を抜かず実行していくのが彼女のスタイル。先を読む力、仲間たちの持ち味を見抜く力は抜群だ。ポラステの歴史に残るイベント企画のスペシャリスト。そんな彼女のつなぐストーリー。

どんな先生も好きでした

— いつから先生になりたいと思っていましたか？きっかけはどんなことですか？

[祐那] 小学校の頃からなりたいたって思っていました。何がきっかけかはわからないんですよね。母に聞くと、保育園の時は、保育園の先生になりたい。幼稚園の時は幼稚園の先生になりたいって言ってたそうです。そして小学校の時は小学校の先生に。でも中学校も高校も行って、やっぱり小学校の先生になりたいと思ったんです。どんな先生も好きでした。

友達と喋っていたら「あの先生嫌い」という話になるじゃないですか。私はそういうのはなかったです。

— 大学時代の思い出は何が浮かびますか？

[祐那] みんなでいろいろ企画したことです。加東市10周年記念事業の盛り上げイベントの一環で「探検家になろう！」や2017年の学祭の際に「魔法学園」という子ども向けのイベントを企画して、私も魔法使いになったりして…（笑）。とても楽しかったです。

スケッチブックに想像図を 描くのが好き

—（指導員からみて）あなたの存在や行動力には目を見張るものばかりでした。何も言わなくても先の先まで考えられる。その力はどこからきたのですか？

[祐那] 見通しを考えるのが好きです。普段からやりたいことがいっぱいあって、それをするのにああやったら、こうやったらと考えてスケッチブックにたくさん描いてました。絵も言葉も交えて。想像図のようなものを描いてました。今でもしています。選択コースの先輩やボランティアの先輩たちが何かするとき、スケッチブックなどに書いて、「こんなどう？」ってよく言ってたから、ああなるほど、そうやってしたらいいんだなど。わかりやすく説明もできるし。そんな考えた企画を実現させてきたけど、想像以上のものを得ていたような気がしていました。友だちがいたからよりいっそうに力になりましたね。



2017年 自ら企画運営した学祭イベントにて

初めてした企画 全部自由に任せてくれた

— 大学時代、数々の企画をした中で大事にしてきたことは？

[祐那] その当時あったネイチャーサークル部（ボランティアが主な活動）でファーストステップという事業をしていたのですが、それに学部1回生の時から参加していて、12月に3回生の先輩が1回生にクリスマス会の企画を1から任せてくれたんです。そこで、仲間をみんな呼んでやりました。とても楽しかったし、先輩からフィードバックをもらって、こうやって回していかないとダメなんだなと思ったところがありました。だから、自分も体験して、後輩にそうしてあげたいなと思ってやってきました。

自分からその子たちに 会いに行ってた

[祐那] 企画を立てる時とかに、「〇〇やりたい！」という芯があって、「こんなブースつくろう！」と次々に浮かぶのですが、そこで、誰がどこで何をするか向き不向き好きなこと得意なことがあるし、それを発揮してもらえるようには考えていました。

あと、ノリノリで活動を楽しんでやってほしいから、全員に自分で説明に行っていました。

ちゃんと自分からその子たちに会いに行ってた。誘ってきて、じゃなくて直々に。こういうイベントするのだけど、あなたにはこういうことをしてほしい、という感じで。やり方はいろいろあるけれど、1つの方向には向かないといけないなと思っていました。

— 自分から動いたことで、信頼を獲得できたということですか？

[祐那] そうですね。ここに来てねって言って、来てくれた子にとりあえず喋るよりは、自分から歩み寄って全部話していくっていうのは、違う気がするんです。どうしたらうまくいくか、みんなの気持ちがこっちに向くかと隙間時間を使って考えて、動いてました。そんな日々はとても忙しかったけど、楽しかったです。

以前は、嫌だったこと、うまくいかなかったこと、意思統一できななかったこと、準備してくれないこと、他のことで忙しいとか…みたいなことがいっぱいあったりしたのが反省でした。だから、**自分から歩み寄って動こうとしてきた**ことが活きているんだと思います。自分でやれることがあったけど、それを全部やってしまったらダメで、任せていくようなことも葛藤しながらやっていたと思います。

— そういった苦い経験や失敗や成功は、教員になってからつながるものはありますか？

[祐那] それはありますね。初任でいきなり1学年1クラス。学年団の先生がいるわけではなかったの、授業だけでなく自分の学年に関わる行事も全部自分で準備して、段取りしないとイケませんでした。もちろん手伝ってくださる先生もおられるんですけど、「こうなった時に、じゃあいつまでにあれする」とか、「この行事でうちのクラスの子にはこうなってほしいな」とか、「でもそれまでにこういうことしたら気持ちもそっちに向いてくれるんじゃないかな」とか、そういう計画を立てたり、練ったりするのは、学生時代の経験がすごく活きていると思います。

例えば、クラスの子どもたちの気持ちを自然学校に向かせるために、ちょっと何人か呼んで「自然学校あるからこういうこと頑張ろう」という声かけをして、その子たちと一緒に盛り上げたりしてとても楽しかったです。

先生がいつも全部本気だから面白い

[祐那] 校長先生が面白いです。1学期の最後のお楽しみ会、大根の着ぐるみ着て、サングラスかけて、シャーっと走ってきて、「お前らお楽しみ会しとるんか！楽しそうやな！」って。みんな「うわ～校長先生～！大根やった～！」って。職員室帰ったら汗だくで、みんなで大根の塩漬けやなって（笑）。また、豆まきがしたいって言ったら、「鬼になったるわ！」って。

〇〇小学校から鬼のセット全部借りて、「部屋真っ暗にしとけよ！」って鬼になってきてくれました。本当に面白い面白い。そして全部本気でした。だから、仕事はもちろんそれなりに苦労もあるけれど、休みたいとかそういうことはないです。

苦労してても、子どものためだし。大人の関係とかだったら、もっとしんどかったかもしれないですけど。保護者の人から何かとかももっとあったらしんどかったかもしれないけれど、そこがないので。悩んでも、子どもたちのこと。別にそれはそういう仕事だと受け止めてやっています。

— 現在、教師として子どもたちに対して、いつも意識していることは何ですか？

[祐那] 楽しかったなと思って1年終わってほしいです。学校に毎日楽しいなと思ってきてもらえるようにしたいなと思っています。

— そのためにやっていることは？

[祐那] 朝の顔を見ることです。朝、なんであんなに子どもってわかりやすいのかなと思うんですけど。よくないことがあったら、よくない表情をして学校に来ます。また、楽しいことがあった子は、「先生あのなあ。昨日なあ。それでなあ。」って、笑顔で話をしに来ます。

また、授業では自分自身が忙しくなったりすると、楽しいことを入れようと思っていても、忘れて淡々と授業を進めてしまったりするので、必ず学期に1回はみんなで面白いことをするぞーという気持ちを忘れずにやりたいと思います。

何かひとつ 専門性をもつこと

— 今後の目標は何ですか？

[祐那] ひとつは、何かしらを極めたほうがいいなと思っています。私は図工が専門なので、その研究大会させてもらいましたが、何か教科のひとつ専門性みたいなものがあるなと痛感しています。教えている中で、自分の軸みたいなものを持ちたい。もうちょっと自分を磨かないといけないなと思っています。

衝撃だった カラフルキャンプとの出会い

[祐那] 学生の時、SHOSAPO主催の無人島に行きました。「無人島行きたい！！」という気持ちだけであまり何も考えずに参加しました。その後、兵庫県を徒歩で縦断する「チャレンジウォーク」に行った時に、リーダーで参加しました。

自分のことをいつも客観的に見ていたとは思いますが、さらに「この集団の中で自分ってこういう立場だ」と。「こういう捉え方されてるのかな」とか。そういうことが見えてきて、だから自分にできることはこういうことなのかなとか、この集団の中で、こういう人がいた方がうまくいくのかなとか、そんな感じでした。でも一番の衝撃だったのが、「カラフルキャンプ」です。これがすごく勉強になりました。みんな何かしらあって、コミュニケーションが取れない子もいたりしたけれど、二日くらい関わっていたら、気持ちみたいなのがわかるようになって。あ、この子は嬉しい時に囁むんやな、とか。悲しいから、今私の髪の毛つかんでくるんやな、とか。そんな時にどう対応したらいいのか、誰かが教えてくれるんじゃないかと、行動で示してくれるから、目の前で。こうやって関わっていったらいいんだなと思えました。あの子たちは毎年同じプログラムだけど、それを楽しみにここに来ています。メンバーは募集なので変わりますが、意外とそういう子たちの方が、次行っても覚えてくれていたりします。お母さんたちとも事後に話すこともあって、今、中学生とか小学生とか、楽しく暮らしているけれど、この子たちが生まれた時は、この子を殺して私も死のうと思ってたとか、毎年そんな話を聞くから。ああ、生き続けなければいけないなと考えました。

今もこのキャンプは続いています。在学中はずっと参加して、卒業してからも何回か行っています。私はそういう子たちの方が分かりやすいので、カラフルキャンプの出会いは大きいです。

最後はボランティアじゃない面白いことしたろ！

ー ボランティアは自分にとって何ですか？

【祐那】 難しいですね！（笑）。結果論ボランティアだけど、意識してやっていないというか。最初は教採の時に喋れると思ってました（笑）。でもどどんのめり込んでいって、自分で計画してやっていきました。何か自分がやりたいことを実現したいと。大学生の間にできることは全部したいなど。

ー ボランティアの感覚はありましたか？

【祐那】 最後はボランティアじゃなかったです。面白いことしたろ！という気持ちでやりました。友だちと面白いことをして、それがうまくいって、まわりの子がたくさん来てくれて、したいことしてくれて、そのついでにみんな喜んでくれたらハッピーじゃないですか。最後はそれぐらいの気持ちで。

— なぜあそこまでパワフルに過ごせたのですか？その源は？

[祐那] 多分、嫌なことが一つもなかったからです。腹立つことはあるけど、腹立つのって結局自分がやりたいことがうまくいかないから腹立ってるわけじゃないですか。だから別に誰のせいでもないからそれで嫌になることはなかったかなと思います。あとは、いろんな自分になれたので、楽しかったです。ボラスで、ボランティアのことを頑張っている自分もいるし、バイト先でコンビニ店員として。よさこい踊っている私も。塾で先生している私もいるし、やりたかったことが全部できて。一か所一か所の自分が全部違うから、疲れなかったです。体力があったのもあると思うけれど。

現在は、今の勤務校で暖めてもらってパワーもらっているなって感じはあります。今は単学級だけど、次の学校へ行ったら、4クラスとか3クラスとかあって、その中で先生方と進めていくと思うので、柔軟に対応できるようにと思っています。

「それは違うんじゃないですか」じゃなくて、「教えて下さい！」っていう姿勢を大事にしていけないといけない。傲慢になったらダメだなと。大学時代はとても傲慢でしたけど…（笑）。

これだけ自由な4年間はない いい使い道を

— 4年大学で過ごし、5年働いているセンパイから後輩たちにメッセージを！

[祐那] 部活もいいけど、いろんなところに行った方がいいですね。先生になるって決めているんだったら、それまでに先生以外のいろんなことをした方がいい。コンビニでバイトするとか、ガソリンスタンドで働いてみるとか、社会を構成しているところに入った方がいいと思う。適当にお金も稼げるし、全部自分で使えるし。いい使い道。お金をどう使うかによって違うじゃないですか。私は無人島に行ったり、東北に行ったり、ボードの板買ったりとか…！あとは、先生になるための準備として、ボランティアに行くのもいいし、やりたいなと思ったことは全部したらいいし。そう思ってやってきたけど、全部できてなくて卒業したけど。大学時代は超楽しかった。これだけ自由な4年間はないくらい。いや、ないと思う。



元指導員の阿江先生は小6の時の担任！